

平成29年度第1回「仙北市地域医療計画」策定委員会

議事録(発言要旨)

- ◆日 時 平成 30 年 2 月 14 日 (水) 午後 6 時
- ◆場 所 仙北市角館交流センター 第 1 研修室
- ◆出席者 管理者(委員長)、大曲仙北医師会角館ブロック会長、同副会長、西明寺診療所長、市立角館総合病院長、市立田沢湖病院長、市立田沢湖病院看護科長、市立田沢湖病院事務長、総務部長、市民福祉部長、包括支援センター所長、事務局：医療局(医療局長次長、医療管理係長)
- ◆案 件 (1) アクションプランについて
(2) 市立病院の平成 29 年度上半期の運営状況について
(3) その他

1. 開 会 (18:03)

○事務局(医療局次長)

資料の確認、委員の紹介、委任状の交付、開会

2. 委員長あいさつ

3. 案件(1)アクションプランについて

○事務局(医療管理係長)

案件についての主な説明事項。

- 平成 28 年度決算で資金不足比率が 10%を上回った。
- 対策を講じない場合平成 29 年度決算で資金不足比率が 20%を上回る見込みとなった。
- 医療局では、資金不足比率が 20%を上回ることを回避するため、平成 29 年度補正予算において、市立角館総合病院に係る収益の減少及び経費の増高分の一部についての一般会計からの補てん等、平成 30 年度当初予算においては繰出基準の見直しを行うこととし、議会 2 月定例会へ議案の提出を予定している。
- 資金不足について、県のヒアリングがあり、主に一般会計からの繰入金について、県内や全国の自治体病院の状況等を交えて助言をもらった。
- 決算統計データを用いて、病床数に応じた自治体病院の繰入額を参考として、適正な繰入額や繰入れルールについて検討を行った。
- 県からの助言もあり、平成 30 年度から総務省の繰出基準に基づかない繰入れ(基準外繰入)を廃止し、原則としてすべて基準内繰入れとすることとした。
- 収支の見込みが立てやすい繰入額の固定化も含めて検討したが、平成 33 年度の元利償還金のピークを迎えるにあたり、本来繰入れすべき経費にこれを充てられなくなる可能性がある点や議会・市民への説明などを考慮し、繰入金の内容を明確にして根拠のある積算をしたうえで繰入れすることとした。
- 最終的な繰入額は一般会計の財政状況や他の行政サービスに与える影響等を考慮して、市側と協議のうえ決定することとした。
- 仙北市地域医療計画は新公立病院改革プランも兼ねていることとしているが、実際の新公立改革プランにおいては、具体的な内容も必要となってくることから、現在は新公立病院

改革プランをアクションプランとして位置付けている。

- 仙北市病院事業では、経営基盤の安定が喫緊の課題であり、新公立病院改革プランの中でも特に経営の効率化の項目について、今後の取り組みなど、ご意見、ご議論いただきたい。
- 医療局としては、特に「人材育成の推進」について、接遇の向上、職員満足度・モチベーションの向上等に繋がり、収入の増加や人材確保へも波及するものと考えている。

○委員長	市立角館総合病院として、今年是新病院への移転そのものが大イベントだったが、この先診療報酬の改定等を受け、病院として取り組んでいくべきこと等があればお話しいただきたい。
○市立角館総合病院 院長	<p>移転開院に伴い医療機器やシステム等を更新したが、開院4ヵ月程で動作の確認等ができた。MRI・CT・レントゲンははじめとする医療機器も入れていただいたので、それらを活用していきたい。</p> <p>また、それらの機器をうまく使える医師を確保していきたい。柱としては消化器内科、特に大腸がん治療のほうに引き続き支援をいただけることになったので、それらを中心に進めていきたい。</p> <p>脳卒中の治療、この地域で必要な急性期の治療は難しいが、それに向かって、例えば慢性期患者の心臓カテーテル検査等を行っていく。それによって内科のスタッフが増えてくるのではないかと期待している。</p> <p>また、人口が減少していることを考慮すると、仙北市以外の地域も含めて検診事業を進めていけないかと考えている。予想以上に高齢化が進んでおり、リハビリ等が予想どおりでない経過を辿るかもしれない。</p> <p>それから、先般大変ご心配をお掛けした精神科医療についても、これまで精神疾患を伴う患者様に対応してきたので、後任医師を確保して、これまでどおりの診療をしていきたい。</p>
○委員長	市立田沢湖病院は昨年医師が1人減となり、大変難儀をしたが、来年度からの方針等お話しいただきたい。
○市立田沢湖病院 院長	<p>医師の人材不足については大変厳しいものであるが、田沢湖病院の今までの役割分担として、慢性期の中でも、医療行為が多く施設には入れない人、急性期病院には長く居ることができないような障がい者を受け入れています。地域の慢性期対応の病院としての役割を担っている訳です。</p> <p>障がい者病棟ということは7割が障がい者であればいいので、3割は一般の患者様、肺炎などの高齢者の急患の方が入院することができます。病床は60床ですから、3割で18床となります。地域の有床診療所の病床数と同じくらいの規模になるわけで、十分に地域の医療を担う事が出来ているものと思っています。</p> <p>更に、地域包括ケアに協力の中心的な役割として協力していくことが大きな役割になってきているものと存じます。</p> <p>平成元年から在宅を始めて、平成3年頃から本格的に訪問看護、診察を施行し一時は50人くらい対応していました。ところが、高齢化が進むにつれ、各種の施設が多く作られたこともあり、特にショートステイのロングに入る方が沢山おられまして、そのために訪問看護になる方が減少し、現在は10人を切っている状況です。</p>
○委員長	西明寺診療所からもお話しいただきたい。
○西明寺診療所 所長	私は、勤務して間もなく19年になる。当時70歳の患者さんは、今88歳になる。現在の患者さんの多くは80歳以上で、高齢化を肌で感じている。西明寺診療所の経営は黒字だが、年々幅が狭くなっている。一回でも赤字になってからは、再び黒字化は困難である。そのための対策を立てている。人件費が多くを占め、これが重要である。本年ベテランの看護師が退職になり、代わりに、新しい看護師を雇用すれば、浮いた人件費で、幅が出る。過疎が進む松木内で、週2回2時間開いている松木内診療所は医師1名、看護師2

	<p>名、事務 1 名で、患者数は、以前は 20 人だったが、今は 5 人程度。院内調剤のため、薬剤も期限切れになることもあり、存在自体が赤字で、これを中止しただけで、黒字になる。</p> <p>また、午後西明寺を休診して、毎木曜日半日田沢湖病院に応援に行っているが、これも月 2 回に減らしていただき、西明寺で診察したい。</p> <p>また、これまで園医や各種の委員会を全て、お受けしているが、これも、診療に支障がある場合は、お断りせざるを得ない。</p> <p>病院と診療所の連携をさらに深めるため、現在も病院に 24 時間救急患者を快く受け入れてくださって感謝しているので、契約を結びたい。これは、病診連携のいいイメージになる。</p> <p>以上、西明寺診療所も生き残りをかけて、仕事を集約して、黒字経営を続け、地域医療を守っていく。</p> <p>しかし、病院は、不採算部門を抱え、お金には換算できない住民のための医療を行っており、赤字はやむを得ない。これは、必死に頑張っておられる先生方や、看護師をはじめメディカルの皆さんに失礼。また病院そのものの、地域経済効果も、考慮すべきである。</p>
○委員長	先生から診療所の話が出たが、桧木内あるいは田沢湖の診療所に週・月数回行っていただいているが、市民福祉部としてそうした診療所の在り方、あるいは現在の方針というものはあるか。
○市民福祉部長	先日、国保の運営協議会が開催された。この協議会へは市長も出席している。今そうした議論を始めている段階ということで、委員の方々からご理解をいただいている。
○委員長	今の在宅や医療・介護連携の話で、不採算であることは確かであるが、包括支援センターで病院に対する要望等があればお話しいただきたい。
○包括支援センター所長	<p>角館総合病院について、これから高齢者が増え、それに伴い認知症も増えることが予測される。そうした中で精神科が充実していかなければ対応に苦慮するだろう。今現在も認知症の方々もいらっしゃるので、通所リハビリセンターや協和病院と連携させていただきながら進めている。</p> <p>西明寺診療所長からもお話しがあったが、桧木内、上桧木内、田沢等、交通手段がない地域については、包括支援センターにおいて、生活支援体制整備事業で住民同士の支え合いということで、例えば車での送迎など、そういったものを今作ろうとして地域ボランティアも含めて進めている。以前は白タク行為の問題などあったが、全国的にはそういった輸送サービス等を進めている所もあり、そういった情報も住民の方々へ提供しながら一緒に考えていく。そうしないと地域に行き医療をしなければならぬ。そういったシステムを作っていくということで、現在「高齢者福祉計画」を策定している。その中でも重点的課題ということで進めている。</p> <p>もう一つは健康寿命の延伸で、そちらのほうも保健課と協力しながら進めていかなければならぬ。いろんなところから健康寿命の延伸を進めていこうとしているので、先生方からご協力をいただく機会もあるかと思う。</p>
○委員長	今の診療所関連の患者輸送の問題等でご意見があればよろしく願います。
○大曲仙北医師会角館ブロック会長	<p>一般論になってしまうかもしれないが、これだけ人口が減少して、患者さんの密度が減っている状況で、桧木内や田沢へ医療側が出かけて行って、そこで診療するとなると極めて非効率で、そういったことをしていれば財政面で改善するということは考えにくい。そういう医療スタッフを確保することも今後難しくなってくる。やはり医療を提供する側はコンパクトに構えて、患者さんがそこに来る手段を工夫するというようにしていかなければ、基本的にやっていけない。それに関して何かの方法として、市が例えばバスで連れてくるとか何かしたからといって、開業医が「そこだけに連れてくる</p>

	のはとんでもない」等そういうことは考えない。
○委員長	患者さんの希望によって患者移送のきめ細かさを確保するということはありだということか。
○大曲仙北医師会角館ブロック会長	そうでないと交通弱者の方はどうしようもなくなってしまう。
○大曲仙北医師会角館ブロック副会長	我々診療所からすれば、大きな病院の会計収支というのはわかりづらいところがある。我々の経営感覚とは違うと思う。私は耳鼻科をずっとやって、最近では内科を任されてきて不安な部分も多いが、市立角館総合病院長や循環器の先生に、患者さんに何か異常があればすぐに診ていただいて大変助かっている。小さな診療所はみんなそうだと思うが、ちょっと不安な面がある。細かい検査になるとすぐに検査機器があるわけではないので、外注になってしまう。そういった検査をすぐやっていたらということもあるが、その他に我々が病院に対して何かできることがあるというのを、もう少し意見を伝えていただければというところがある。「何かできることがあるのでは」ということについて、病院側から伝えていただければ、気が付くところも出てくると思う。
○委員長	角館総合病院が新しくなり、機器も最新鋭のものになって、まだ外部から受け入れられるキャパシティの部分はあるか。
○角館総合病院院長	その辺のことも含めてまだ宣伝していないからかと思うが、例えば循環器系で言うと、胸部CTを出してもらい冠動脈の石灰化の有無を診ることによって狭心症、あるいは冠動脈の狭さくで、場合によってはステント等の治療が必要ということスクリーニングすることができる。それを浸透させるには少し時間がかかる。こういう検査ができるということを診療所の先生方へ紹介して交流していただくということが大事だと考えている。 インターネットを使って画像診断ができるかという話しも出ており、CT、MRIの画像を大学病院の先生とやり取りできればと思う。そこには誰がそれを診断するのかという問題もあり、日中はいいが、夜間どうするかなどの問題がある。また、他の病院とも連携するなど、仙北市に限らず多くの患者さんを受け入れるということも考えている。
○委員長	是非、そうした病院の情報を可能な範囲で提供していただければと思う。それが病院の収益の増加に繋がることもあるかと思う。
○角館総合病院院長	4月を目途にそうした情報を提供できたらと思う。
○総務部長	先生方から公共交通のお話があった、患者移送のことだが、公共交通を担当している部署としては、今高齢化が当市でも進んでいるということで、医療のことももちろん、買い物に行くのも難儀している方が多い状況である。それも含め、これからの公共交通をどうしていくかということについて市長から指示をいただいている。バスを運行するのか、デマンドバスにするのか、それ以外に方法はないのかなど現在、調査・研究している。その辺のご意見等を伺う機会もあるかと思うのでよろしく願います。 もう一つ、補足資料の中で、「平成28年度から試験的に実施していた外部機関によるレセプトデータを利用した経営分析を、平成29年度から本格的に実施し、他病院との比較や自院の状況を分析し、効果的な収入増加に取り組む」とあるが、平成29年度はどのような状況なのか教えていただきたい。
○事務局（医療管理課係長）	平成28年度に市立田沢湖病院で無料期間があり、試験的に実施した。平成29年度については引き続き市立田沢湖病院、それから市立角館総合病院についてもレセプトデータを提供し経営分析を行っている。他の病院との比較等もあるが、市立角館総合病院については平均以上の収益を上げており、経営自体は悪い方ではないというような見方をしている。ただ、不採算の部分も

	あり、そういうところについては繰出不足のところもあったのではと分析をしている。
○総務部長	不採算の部分があり、繰出基準の見直しということで今回の議会の目玉になると思う。昨日、議会運営委員会あるいは全員協議会で予算の概要を説明しているが、病院への繰出金が約 2 億円増えるということで説明している。今回県から示された全国・県の基準額に照らし合わせると、これまで仙北市が病院へ対する繰出しが少なかったという結果だと思う。そのあたりを説明してご理解をいただいくことになると思う。
○委員長	<p>全体としての赤字要因は、診療そのものということではないわけではないが、資産の部分、田沢湖病院、角館総合病院において病院の建て替え等の償却や起債の償還等で、資金不足がどんどん累積してしまっている。今回の角館総合病院についても従来の古い病院であれば、そういう資産に対する経費が軽微だったので、ランニングコストと比べれば大体とんとんでやってくることはできたが、その部分の負担が極端に増したため、当然織り込み済みの話しではあるが、特に初期の 6 年間に関しては経営的に非常に負荷がかかる構造になっていると覚悟しなければならない。</p> <p>そうした中で、市当局に配慮していただいたが、そこに寄りかかってばかりはられないということは当然ある。本来であれば外部の分析に関しても診療科別等細かい部分まで分析し、本当に市民に必要なのかという点についても評価が必要だと思う。厳しく言えば「従来からやっています」という理由では済まされないぐらいの負荷が現在かかっているため、その辺の意識は持っていかなければならない。</p>

4. 案件（2）市立病院の平成 29 年度上半期の運営状況について

○事務局（医療管理課係長）

案件についての説明。

- 市立田沢湖病院の医師 1 名の減については、県から派遣していただいていた医師 1 名が引き上げたことによる減となっている。
- 市立角館総合病院に関しては移転開院による影響はあるが、病床数が適正な規模となったことにより、高い病床利用率となっている。
- 収支悪化については病院事業として約 2 億 3,100 万円である。ただし、上半期を終え現在に至るまで、ほとんどそのままの額を維持している。角館総合病院については、移転開院当初における影響額、減価償却費の増加を除けば、現金ベースでは前年度よりやや良いほうへ戻っているという状況である。

○委員長	下期になると、角館総合病院における精神科入院病棟休床の影響が出てくると思う。
○大曲仙北医師会角館ブロック会長	どのぐらいの影響があるのか。
○事務局（医療局次長）	これまでの入院の病床稼働率で月約 1 千万円から 1 千 5 百万円の影響になる。
○委員長	年間約 1 億 5 千万円の収益になるが、そこに配置されている看護師の給与がおおよそ、その額にあたる。入院患者さんがいなくて看護師がそのまま配置されていたとすれば、それが丸々赤字になってしまう構図。ただ、この 3 月で看護師が減るため、その負荷がそのまま影響してくるというわけではない。
○大曲仙北医師	辞めない人は配置転換するということか。

会角館ブロック会長	
○委員長	そうしていただく予定である。ただ、4月からは厳しいが、なんとしても病棟を再開したいということで現在後任医師の確保に努めている。
○大曲仙北医師会角館ブロック会長	再開したときに、また看護師が不足するという事にならないか、そこが心配である。
○委員長	そこは難しい調整が必要になってくるかと思う。

5. 案件（3）その他

案件以外の件

○田沢湖病院看護科長	<p>先に院長からも説明あったが、私からも在宅に関してお話しさせていただく。</p> <p>在宅患者さんは、平成元年スタート当時50人近くおり、5年前が26人、現在9人である。82歳から99歳で平均年齢93.4歳の方が訪問診療・訪問看護を受けている。高血圧をベースに複数の慢性疾患を抱えている。</p> <p>在宅の方が減った理由として、老老世帯の多さ、日中家族が働きに行って高齢者が一人になっている世帯の増加ということで、当院は家族が一緒にいないと訪問診療・訪問看護が受けられないことになっており、こういう方が対象外になっている。</p> <p>それから施設の増加ということで、短期入所の施設がたくさん建った。院長が言われたとおり、短期のロングというのが非常に多く利用されている。</p> <p>田沢湖病院から自宅に戻る方はたった9%である。これからは支える医療として施設も在宅として捉えていく必要があるという思いがある。</p> <p>それから通院困難に縛られずにハードルを下げるということで、薬の自己管理ができない方が外来に多くいらっしゃる。こうした方々について、医師の指示書があれば院外薬局で薬の管理をしてくれるというように、もっと訪問診療・訪問看護のアピールが必要だと考えている。ケアマネージャーさんからは重症化した患者さんを速やかに受け入れてくれる施設として評価していただいているので、病院も地域サービスのひとつとして、地域にもっと目を向けなければという思いでいる。</p>
○委員長	ショートに入られた患者さんは定期的に田沢湖病院への通院は施設のほうでやってくれるため、ショートに入るとそういった面では楽というのがあるのではないかと。
○田沢湖病院看護科長	ただ、待ち時間がどうしても長くなってしまいうということがある。

6. 閉会 (19:13)